

活 用 事 例	京都市立桃陽総合支援学校	大杉仁彦教諭
活用事例タイトル	「NEW文房具を開発しよう」	
対象授業科目/活動	総合的な学習の時間	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	<p>教科名：総合的な学習の時間 単元名：NEW文房具を考えよう</p> <p>目的：文房具の調査と分析を行い、グループでアイデアを出しながら役立つ「NEW文房具」を企画する。グループの提案をプレゼン・ポスターセッションなどで交流し合い、最終的にまとめた企画を聞く人にうまく伝える。</p> <p>実施時期：平成24年7月～12月 対象学年：中学部1・2・3年 参加人数：29名</p> <p>ICT活用局面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人活動時に常時タブレットパソコンを携帯し、必要な時にインターネットを積極的に活用して文房具に関する情報を収集する。 ・分教室の生徒と本校生徒が協働学習する時、TV会議システムやコラボノートを活用する。 ・収集した情報をまとめる時に活用する ・プレゼン発表資料作成、プレゼン発表時に活用する 	
ICT活用により期待できる効果 ICT活用のねらい	<p>ICT活用のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用することにより、文具についての情報収集を行う。 ・収集した情報をまとめ、自分のフォルダにまとめる。 ・集めた情報を基に、話し合い活動を行う。 ・TV会議システム、協働学習システムを活用し、本校と分教室の生徒が協働学習を行う。 ・話し合い活動でまとめた内容を、プレゼンにまとめて発表する。 <p>期待できる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台TPCを活用することにより、時間のロスなくフレキシブルに調べ学習を進めることができる。 ・調べた情報をグループ内で共有することが容易になる。 ・TV会議システム、協働学習システムを活用し、本校と分教室の生徒がグループ活動（協働学習）をすることができる。 ・TV会議システム、協働学習システムを活用し、発表会に参加することができる。 	
評価、振り返り（活動の評価や児童・生徒の声など）	<p>本校と分教室の生徒がグループ活動（協働学習）をすることができた。</p> <p>本校と分教室の生徒が協力してプレゼンを作り、発表も協力して実施できた。</p> <p>集団に参加できない生徒も、TPCを活用することにより、グループ活動に寄与で</p>	

	きた。 I C T 機器活用のスキルが向上した。
その他 (関連 WEB サイト等ありましたらご記入ください。)	文部科学省「学びのイノベーション事業」、総務省「フューチャースクール推進事業」 http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/toyo-y/future_school/index.html

総合的な学習の時間 授業デザイン

日	時：平成24年12月7日（金）第4校時（11時40分～12時30分）
学	年：中学部 1・2・3年
授業者	：大杉仁彦
授業場所	：本校 会議室，分教室

児童生徒の障害	
■病弱	（ 29 名：内 発達障害 名 ）
■病弱・知的	重複障害（ 1 名 ）
□病弱・肢体不自由	重複障害（ 名 ）

1. 単元（題材）名

「NEW文房具を考えよう」（アントレプレナーシップ教育）

2. 単元（題材）の目標

文房具の調査と分析を行い、グループでアイデアを出しながら役立つ「NEW文房具」を企画する。グループの提案をプレゼン・ポスターセッションなどで交流し合い、最終的にまとめた企画を聞く人にうまく伝える。

3. 単元（題材）の指導計画

指導計画（全32時間） 本時 27時間目

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えた「NEW文房具」を外部講師に提案する。 ・グループ内で役割分担を明確にし、発表する。 ・外部講師の評価を聞く。 ・相互評価をする。 	IWB TPC TV会議システム


4. 本時の目標

- （1）グループで企画した「NEW文房具」のプレゼンを、伝える相手を意識し工夫して発表する。
- （2）他のグループの発表をよく聞き、感心する点・良い点などを聞きとる。

5. 本時の情報通信技術（ICT）活用

活用する場面	・導入 ・展開
活用する者〔目的〕	・生徒 [プレゼン提示] ・指導者 [資料提示]
活用するコンテンツ	・協働学習システム 自作プレゼン
活用する機器	・IWB ・TPC ・リモートカメラ ・TV会議システム

6. 本時の展開

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICT による支援】
導 入	<p>一斉学習</p> <p>本時の活動内容の確認</p> <p>外部講師の紹介を聞く。</p>	IWB (指導者)	<p>TV会議システムで本校と分教室をつなぐ。 リモートカメラを設置する。 本時の説明</p> <p>集中して聞くように促す。</p>
展 開	<p>協働学習・個別学習</p> <p>グループ毎にプレゼン発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MOCCHI ・The world クレパス ・Freedom ・F-15 ・Futuredream ・ザ・ふつう! ・クロウノス社 <p>他チームの発表を聞き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEW文房具のコンセプトが良かったか ・相手に伝わるプレゼンであったか ・感心する点, その他良い点 ・アドバイス <p>を記入する。</p> <p>外部講師の講評・評価を聞き, 書き留める。</p>	<p>IWB (生徒)</p> <p>PC</p> <p>TV会議システム</p> <p>TPC (生徒)</p>	<p>グループの活動がスムーズにできるよう支援する。 分教室の生徒と一緒に発表するグループに対し, マイクを準備する。 TV会議システムの音声聞き取りにくい時は, ゆっくり話すように促す。</p>  <p>集中して聞くように促す。 メモするよう促す。</p>
ま と め	<p>一斉学習</p> <p>次回の活動について</p>		<p>メモするよう促す。</p>

7. 本時の評価 (評価の観点・観点別の評価を含む)

- (1) グループで企画した「NEW文房具」のプレゼンを, 伝える相手を意識し工夫して発表できる。
- (2) 他のグループの発表をよく聞き, 感心する点・良い点などを聞きとることができる。

8. 準備物 学習プリント, IWB, TPC, デジタル資料 (自作コンテンツ, 協働学習システム)